

公会堂は米子人魂のシンボル

公会堂にドッグ(空調・音響の改修)を!! ピンチ(財政逼迫)をチャンス(アイディア)へ

広報渉外部長 加藤 洋子

2年前、「米子市公会堂」について激震の走る新聞記事が出ました。2006年4月20日付け山陰中央新報、「再び老朽化...米子市公会堂 維持か閉鎖か」「巨額の再改修費に市教委苦悩」とありました。私たちはいてもたっても居られず、「米子市公会堂の充実を求める会」を立ち上げました。

「公会堂」の歴史を振り返ると、そこには紛れもない「米子人魂」が!!

「公会堂」誕生の経緯・・・「公会堂」は市民と行政の協働のお手本

1958年(昭和33年)、米子市は準赤字再建団体のなかで結成されたばかりの自治連合会が中心となり建設推進運動起こし、「1世帯が毎日1円を貯めて公会堂を」と市民に呼びかけ、建設費1億7600万円の内『3000万円』の寄付が集まり、市民の熱い思いが結集されました。設計は日本を代表する建築家村野藤吾氏に依頼。快諾された村野氏は市民の熱い思いに感動され、設計料を返上、寄付して下さったと聞いています。「グランドピアノ」をイメージし設計された公会堂は、シンプルで利用する人に優しく、配慮がなされています。また、村野建築の傑作として1997年、国の「公共建築百選」にも選ばれました。

「公会堂」大改修・・・市民が大活躍

1978年(昭和53年)、「公会堂の改造を市民参加で進める会」発足。

1980年、ホールの音響、施設設備が大改修され、米子市文化協議会を始め、市民が色々なアイディアを出し、随所に意見が取り入れられ、すばらしい公会堂に生まれ変わりました。

公会堂は市民のみならず、これまで色々なプロが演奏し、演じ、愛されてきました。その一例に1994年、加藤登紀子さんが「『公会堂』と名がつくホールが日本全国から姿を消していくのが残念です。この『米子市公会堂』は壁に木がいっぱい使っていて、とても気持ちよく歌えるホールです。大事にしてください。」と言われたことを思い出します。

登紀子さんから14年。ことし50歳の「公会堂」は空調などに疲れが出ています。



さん・さん・三度目に向けて Go Go-!!

大改修後から28年。誕生から50年たった今、再び「空調補修、改築の必要」に迫られています。音響、空調などは四半世紀の間に取り替えが必要と言われています。県民文化会館「梨花ホール」が建設15年で大改修されると聞く中、公会堂は大改修後、この間2000年(平成12年)には西部地震を体験しています。しかし、未だに米子市は公会堂の耐震調査の予算を付けていません。

人は一定の年齢に達すると「定期健診」「人間ドッグ」を受けます。建物も同じです。1120席を持つ公会堂の代わりなるものは他にはなく、「米子人魂」と共に文化の殿堂として、大切に次の世代に受け継いでもらうためには「改修」というドッグが必要です。そのドッグという改修にどう向き合い、公会堂の充実求める市民活動にしていくか模索していたところ、昨年、会員の一人が「市民自治の可能性～市民と行政の共同とは～」と題した講演会に参加しました。講師は米子出身で千葉県我孫子市の前市長の福嶋浩彦氏。講演の中で福嶋氏は「市にお金はないのではない、使う順番がある。」と話されました。

講演会の話聞いて「会」として福嶋さんにぜひ公会堂「公共ホール」の果たす役割について講演を依頼し、今回「市民の自治と公共ホール」と題した講演会が実現しました。

この講演が今後の「公会堂の在り方」の方向性を見出すヒントになると期待しています。準赤字再建団体にも関わらず、市民を巻き込んだ「一円募金運動」「公会堂の改造を市民参加で進める会」を展開した諸先輩に続き、「さんさん・三度目」の運動に向けて、財政逼迫(ピンチ)を新たなアイディア(チャンス)で「公会堂」の存続に繋げて行きたいと強く思っています。

文化が育つ「まち」は 「人」が育ち「人」が集う



2008年度「米子市公会堂の充実を求める会」の 会員になって下さい!!

この会はみなさんの会費で活動しています。会に賛同いただける方は是非会員になって一緒に考えていきましょう。2007年度会員の方は引き続き会員となって下さい。本日会場で受け付けしております。

すでに2008年の新規団体・個人の申し込み、継続申し込みをしていただいています。

2007年度の会員

団体(37団体)

- | | | |
|-------------------|---------|----------|
| 演劇集団あり | ゆめっ子くらぶ | 米子シネマクラブ |
| 邦楽舞踊連盟 | 米子労音 | 米子市民劇場 |
| NPO法人ソーマレグルス | | 健身太極拳連盟 |
| 米子マンドリンオーケストラ | | 米子こども劇場 |
| 日本中国友好協会米子支部 | | 米子歌舞伎久米座 |
| 彩 | 米子管弦楽団 | 瑞仙寺 |
| 米子ちぎり絵水星会 | | 般若寺 |
| 人形劇団いとぐま | | 龍心会 |
| シニアネット米子 | | 綸の会 |
| 常声会 | 米子混声合唱団 | 米子かこう会 |
| 勝田町一番地寄合楽団 | | 合唱団ぼぶら |
| グループ トライ | | 白珠 山陰支社 |
| 鳥取県西部合唱連合 | | 有限会社 らばん |
| 山陰中央新報社米子総局 | | 鳥取県吹奏楽連盟 |
| レインボージャズオーケストラ | | ピスターレ |
| チャーチル会・米子 | | 米子市文化協議会 |
| 米子サン・アビリティーズ俳画クラブ | | |

個人会員 315名

春一番こんさーと 其の貳拾六 顛末紀

勝田町一番地寄合楽団 山口 研一

我が勝田町一番地寄合楽団（以下勝田町）の首領である 隅さん（仮名）から事務局長の私に「来年の春一番こんさーとは公会堂が取れなかったわ！」と電話がかかってきたのは、去年の3月初頭のことでした。同時期の週末に演奏会を行う団体が増えたことで、どこかの団体が文化ホールでの開催に変更しなければならないことになりましたが、その煽りが我が団を直撃したのです。当団の春一番こんさーとは其の壱からずっと3月末に公会堂で開催しており、集客に難はあるものの、毎年米子市の春の風物詩として、一部の好事家達に支持されてきたものとの自負もありました。が、現実はその甘くはなかったのです。

勝田町は元々米子東高校吹奏楽部の OB バンドを母体とする吹奏楽団です。現役大学生が春休みに帰省して参加しやすいように便宜を図っているため、現実的にはこの時期以外に演奏会を行うことは不可能というのが事実なのです。そこで、文化ホールへの開催変更を余儀なくされたのですが、更なる追い討ちとして「前日は他団体の使用が決定しており、前日のリハーサルは別の会場で行わなければならない、加えて、当日に楽器搬入を行うためリハーサル時間が例年より短縮される」という問題が起こりました。

実際、前日にはさなめホールでリハーサルを行い、楽器を運送業者さんに預けて解散し、当日朝から文化ホールに集合し、雑壇を組んで楽器を組み立ててセッティングを変更したりして、押し押しのスケジュールの中リハーサルを行い、数曲のリハーサルは捨てて本番に臨むことになりました。

結果として、入場者数に関しては、悲しいかな、収容可能人数が減っても何ら問題は生じませんでした。しかし、楽屋として使用できる部屋数が公会堂より少なく、かなり出演者で混雑した印象がありました。お客さんからは、「バンドの音量から考えると、会場が狭すぎる」とのご指摘を受けましたので、「音量で目を眩ます」という我々のお家芸には向かなかったのかもしれない。

来年も我々は文化ホールで春一番こんさーとを行うことが決定していますが、もし、同規模の代替施設のないまま多目的ホールとしての公会堂が閉館されてしまうようなことがあれば、この毎年3月に、いや、一年を通じて催しを行う全ての文化団体の活動の足かせとなり、ひいては地域文化発展の停滞を招くであろうことが容易に想像されます。



ひっぱりだこ 米子市のホール !!

市民のホール利用は土日に集中！

平成19年度の月別稼働率抜粋(1日一件(以上)で1日稼働) 単位：%	7月	12月	3月	平均
公会堂大ホール	76.9	66.7	59.3	53.4
文化ホールメインホール	57.7	70.8	92.9	62.4
淀江文化センターさなめホール	64.2	66.7	63.0	49.7
平均	66.3	68.1	71.7	55.2

平成19年度の米子市公会堂の利用を月別にみると、最も高い月は7月です。これは夏休みの時期にあたり、公会堂が吹奏楽などの演奏会に適していることから高い稼働になっていると思われます。また、「春一番こんさーと 顛末紀」にある3月は、催しが集中する月ですが、文化ホールでは稼働率が92.9%。利用されなかった日がたった2日間という稼働率の高さです。また、夏休み・春休み、土日・祝日には催しが集中します。3館の合計稼働日は515日ですが、利用件数は557件。つまり42日間は2件ずつの催しをこなしている状況です。こんなに活発な市民の文化活動を育ててきた「米子の文化の殿堂」には、まだまだ活躍してもらわねばなりませんね。

2007年の活動

米子市公会堂の充実を求める会は、米子市民をはじめ広範な地域住民の貴重な財産である米子市公会堂の存続と充実発展を求め、2006年9月結成しました。

2006年は幹事会を開催し、会の活動について討議しました。また米子市長、教育長へ会の発足挨拶に行きました。

2007年は耐震強度調査費が予算計上されなかったことについて公開質問状、回答に対する説明会を開くなどの活動をしながら、会の仲間を広げる活動をしました。

8月には「公会堂をもっと知ろう会」を下記の通り開催しました。

とき 2007年8月27日(月)
 ところ 米子市公会堂前庭、ロビー、舞台
 外観見学 村野藤吾のデザインの素晴らしさ
 舞台見学 公会堂スタッフのみなさんによる説明

参加者 39名(会員25名、会員外13名)
 マスコミ取材
 日本海TV、NHK、山陰中央新報社、
 新日本海新聞、4社

私たちのまだまだ知らない米子市公会堂を知り、建築物としての素晴らしさ、普段なかなか行く機会のない照明室や映写室、奈落の見学をしてホール設備の奥深さを感じた貴重な時間となりました。



八田頼明氏の解説

2008年になってから耐震強度調査費について米子市議会議員の方へのアプローチを行ないました。2008年度も米子市公会堂の耐震強度調査費は計上されませんでした。今日の講演会で元気をもらい2008年度も力をあわせて活動していきましょう。

2008年度総会のご案内

2008年度の総会を左記日程で開催します。この総会では今後の米子市公会堂のあり方、活動について話し合います。多くの会員のみなさんと話し合い、元気の出る総会にしましょう。

とき/9月9日(火)夜7時~9時
 ところ/米子市公会堂2階会議室

- ・ 2007年度活動報告
- ・ 2007年度収支報告
- ・ 2008年度活動目標
- ・ 2008年度収支予算

ほか